

【議案第63号】

令和4年度浜田市公共下水道事業会計補正予算（第1号）

議員名	反対理由
足立 豪	過疎の地域指定を受けて人口密度の低い浜田市では、面的な整備よりも点で整備できる合併浄化槽が経済的にも災害面においても優れている。加速度的な人口減少と少子高齢化が進む中、全体の事業費が確定しないまま進めることは、このまちを背負って活躍が期待される若者たちへ長きに渡り、将来世代に大きな負担を背負わせることになるため、本議案に反対する。

【請願第5号】

加齢性難聴者の補聴器購入費助成制度の創設及び意見書の提出について

議員名	反対理由
肥後 孝俊	市独自での補助事業制度を策定するにあたり、議論がしっかりと進んでいない。
大谷 学	現時点においては、市で取り組む状況にないため。
三浦 大紀	本請願にある状況は理解するものの、他の身体機能低下によって想定される事案も含めて議論する必要があると考えるため。国には現行制度の緩和について検討を求める。
足立 豪	聞こえにくいというのは主観であり、客観的に判断することが困難。障がい認定には基準が明確に設けられており、その基準を満たさないものに支援することは、たとえ医師の診断があったとしても基準を満たさないものに独自の助成金を設けることは公平性に欠けると判断する。
川上 幾雄	市に対する制度創設については、時期尚早と判断する。しかし、国に対しての助成制度の創設は成しておくべきものと判断した。よって、2点目の国に対する要望のみ採択する。
柳楽 真智子	補聴器利用については、高額なものであっても聞こえにくくなるとの声もよく聞く。まずは何が有効であるかを国で検討いただき、相談体制も含めた制度設計をしていただきたい。
布施 賢司	市の制度として創設するのは難しい。

令和4年9月定例会議 反対理由

議員名	反対理由
岡本 正友	<p>現行制度の拡大でなく介護予防の観点から介護保険で考えるべき。これまで全国で3%の実施状況である。</p> <p>市への助成制度が不確定なのに国への要望はなじまない。</p>
佐々木 豊治	<p>補聴器については、まだまだ国全体としてもいろいろな研究が進められている状況だと聞いている。鬱や認知症の危険因子というの、調べると、参議院での厚生労働省老健局長の答弁では、「その因果関係やメカニズム、難聴補正が認知症予防につながるかどうかについてはエビデンスレベルまではまだまだ十分に確立されていない状況だと承知している」とされている。さらに、AMED 日本医療研究開発機構において、この聴覚障害の補正による認知機能低下の予防を検証する研究を行っているという状況もあるようである。</p> <p>助成制度の確立については当然必要と思っているが、これらの国の動向を見据え、無駄なく効率的な助成になるよう、まずは国の支援を求めるものである。</p>
田畑 敬二	<p>国の動向や市長の考えを表明されていないため。</p>
西田 清久	<p>市が創設するということにはなじまない。</p>
川神 裕司	<p>助成対象が不明確。</p>
牛尾 昭	<p>なじまない。</p>